

# だいきく通信 第二十六号 「夏の号」



## ついでに

四月十四日、十六日、熊本で大きな地震が起こりました。被害にあわれたみなさまに心よりお見舞いを申し上げます。

東京では早くも夏を思わせる陽気が続いております。大地の動きや気候の変化を目の当たりにするにつけ、改めて自然の力の大きさ、一方で人間の力の小ささを思い知らされます。今年は暑さが厳しくないことを祈るばかりです。

社報「だいきく通信」の第二十六号をお届けいたします。

今回の内容は催し物のご案内、神社にまつわる豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」、そして、オリジナル・キャラクターが活躍する連載まんがなどです。

引き続きなにとぞよろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

大國神社 宮司 大島資生



## 大國神社の今

(1) 「第五回だいきく落語会」を開催しました

去る五月二十一日、古今亭菊乃丞師匠をお迎えし、盛況のうちに第五回だいきく落語会を開催しました。お運びくださいましたみなさま、ありがとうございます。今回は「火焰太鼓」「三井の大黒」の二席。いつもながら、師匠の巧みな語り口に酔うひとときでした。特に、二席目は「いつかこの落語会で」と温めてくださった演目で、大変ありがたかったです。

本落語会は今後も継続していきたいと存じます。次回の予定が決まり次第、改めてお知らせいたします。

(2) 第二回だいいこくクラシックスを開催します  
前号でもお伝えしましたが、本年十月に第二回だいいこくクラシックスを開催します。

・第二回だいいこくクラシックス

小林久美ヴァイオリン・リサイタル

十月 二日(日) 午後三時より

今回も小林久美さん(東京都交響楽団)をお迎えしてヴァイオリン・リサイタルを開催します。現在、鋭意企画準備中です。お申し込みの詳細については、改めてご案内いたします。どうぞご期待ください。

(3) 腰掛をご奉納いただきました。

マイルド・ミー有限公司様より、腰掛をご奉納いただきました。ありがとうございます。社殿への出入りの際、靴の脱ぎ履きにどうぞご利用ください。



## お宮あれこれ「六曜」のお話

「大安」「仏滅」などという言葉を耳にすることがよくあると思います。これは伝統的な暦につけられている注記(「暦注」といいます)の一つで、「六曜」というものです。今回は「六曜」についてお話ししましょう。

「六曜」の「曜」は「光、輝く」という意味をあらわしており、占術でいう「星」を表わします。「六輝」と呼ぶこともあります。「六曜」と呼ばれるのは次の六つの星です。

先勝(せんかち・せんしょう)

友引(ともびき)

先負(せんまけ・さきまけ・せんぷ)

仏滅(ぶつめつ)

大安(たいあん・だいあん)

赤口(しゃっこう・しゃつく)

旧暦では各月の一日目がそれぞれの六曜に当たるとされます。一・七月は先勝、二・八月は友引、三・九月は先負、四・十月は仏滅、五・十一月は大安、六・十二月は赤口です。二日目以降は上記の順に従って六日で一巡します。それぞれの星に当たる日は、時刻による吉凶が定められています。本来、中国の占術である小六壬法しょうりくじんが、わが国に入ってから変化し、このような形になったとされており、江戸中期から暦注に記されて流行し始めたのが現代まで受け継がれています。以下、順に見ていきましょう。



○「先勝」(または「先勝日」)は、万事に急ぐことがよいとされます。午前は吉、午後は凶とされています。

○「友引」(または「友引日」)という言葉は本来、「相打ち、引分けで勝負なし」ということを表わしており、良くも悪くもない日という意味でした。「友引」の日は、正午のみ凶とされます。

一方、陰陽道では、災いが友に及ぶとされる方角のことを「おんみょうじょう」  
「友引」と呼んでいました。たとえば、子の日は卯(東)方、丑の日は辰(東南東)方というように、日によって異なり、特にその方角に向かって葬儀を営むことを避けたそうです。幕末の頃になって、暦の「友引」が方角の「友引」と混同され、「ほかの人の死につながるから」といって、友引の日に葬礼を避ける習慣が生まれたとのことです。

○「先負」(または「先負日」)は万事控えめに平静にしているのが吉とされる日です。午前は凶、午後は吉です。

○「仏滅」(または「仏滅日」)はすべてについて凶とする日です、何事をするのも忌み慎むべきであるとされます。文字通り「仏の入滅」の意です。

○「大安」(または「大安日」)は逆に、何をするにも良い日とされます。現在では特に婚礼に良い日と言われています。「大安吉日」といった表現もよく使われます。

○「赤口」(または「赤口日」)も「仏滅」と同じく凶とされる日で、特に新規事業を始めることは慎むべきだと言われます。ただし、正午のみ吉とされます。

ところで、陰陽道では赤口神が木星の東門を守るとされていました。その配下に八大鬼がおり、一日交替で門の守護に当たっていたのですが、そのうち、第四番目の人獄率神は神通力を振るって人々を惑わせたと言われました。このことから、この鬼の当番の日を赤口日と呼び、凶の日と考えたのだそうです。

以上のお話の中でも何度か出てきた陰陽道は、平安時代に民間に広まっていた思想です。「大安」「仏滅」などは、そういった古い時代のものの見方が現代の生活の中にひよいと顔を出しているものと言えるでしょう。



## 祭礼・祈祷などのご案内

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは次ページの電話番号もしくはメールにてお願いいたします。不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話してください。のちほどこちらからご連絡いたします。

○諸祈祷受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈祷を行っております。祈祷日時については、お電話にてご相談ください。

(連載まんが)

# 大吉うさぎ ~漢字クイズ~

くまこまち 作



〈お問い合わせ・お申し込み〉

〇三二二九一八一七九三〇(携帯) 〇八〇一一九八七七八二六

eメール daikokujinja@gmail.com

〇次回甲子祭

平成二十八年八月十日(水) 午前五時〜正午

〇開運千人講祈祷祭 毎月一日 午前六時〜正午まで



## 次号発行予定

「だいこく通信第二十六号」、いかがでしたか。次号「秋の号」は、十月九日の甲子祭に発行予定です。

「だいこく通信」第二十六号 平成二十八年六月十一日発行

編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇一〇〇〇三 東京都豊島区駒込三一一一十一

<http://www.daikokujinja.org>